

Q.

経済学を学べば、
ゲームの達人になれる？



経済理論は驚くほど明快。
かつ幅広い応用範囲で使うことが
できるツールです。

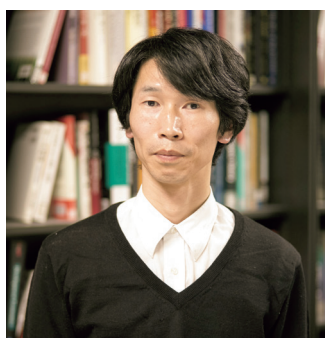


ゲーム理論は“モノ”の分け方だけでなく、
恋愛から外交問題までを語れる理論。

“モノ”の分け方を資源配分と言います。“モノ”には限りがありますが、一方で人は少しでも良い生活をしたので、質的にも量的にもより満足いくものを求めます。欲望というのは限りないわけですね。でも“モノ”は限られている。そうした限られた“モノ”を、人々ができるだけ満足するように配分できるかを研究するのが経済学です。この経済学にゲーム的状况の想定を加えたものをゲーム理論といいます。“ゲーム的状况”というのは、将棋やチェスのように対戦相手(自分以外に意思決定する者)がいて、その相手はどういう行動をするかによって、自分の最善策が変わってくる状況のことです。ゲーム理論は恋愛から外交問題まで幅広い範囲で応用することができるんですよ。

貿易、金融、労働、環境などの分野は、
根底にある経済理論の応用である。

例えば、エスカレーターに乗る時、多くの地域では右側を空けて立ちますよね？あの行動もゲーム理論で説明できます。まわりの人の行動からどちらを空けるべきか判断をして立つ側を選んでいるのです。また、デートでどこに行くか、ということもゲーム理論で検討することができます。その他にも、ドラマなどで見かける容疑者が司法取引のもとと告白をするといった行動や、歴史的イベントとしてはキューバ危機の結末もゲーム理論で説明できます。当然、企業の戦略分析などにも積極的に使われています。ゲーム理論に限らず、経済学を身に付けるということは、複雑なことから本質を整理する能力と、その整理されたものから結論を導く論理性を養うということです。世の中が経済中心で動いている以上、それを実践的に理解するためにも経済学は重要です。



川森 智彦 先生

PROFILE

社会は複雑で、それについての議論もあまになりがちだが、経済学は驚くほど明快で、かつ説得力を持つ結論を導き出すツールと答える川森先生。このことを大学時代の勉強で知り、さらにゲーム理論と出会って、集団的な意思決定の分析にも興味を持ったそうです。

学生時代の
マイブーム



月に一度は無の境地。

学生時代は大学内にあったお堂で、月に一度坐禅する坐禅サークルに所属し、その部長を務めていました。坐禅している間は無の境地。自分を忘れる時間としても有効だったと思います。機会があれば、お試しください。